

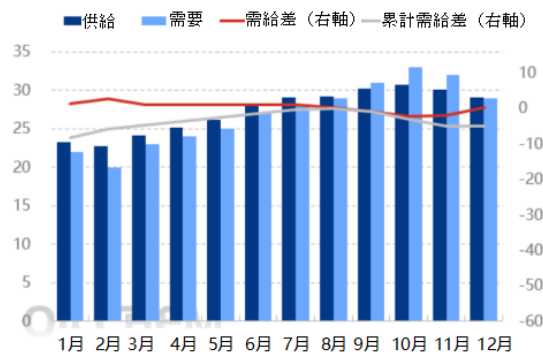
CMI 株式会社

横浜市鶴見区鶴見中央2-12-30-105

TEL: 045-717-8575 FAX: 045-717~8683

2026 年 中国負極材料市場の展望

負極材料の予測では、中国は 2026 年の総生産量が 326 万トン、輸入量が 1.5 万トン、市場の総供給量は 327.5 万トンと見込まれている。一方、需要面では、動力電池、蓄電池、民生用電子機器分野の合計消費量は 323 万トンと見込まれている。これらを総合すると、年間の需給差は約 4.5 万トンとなり、供給が需要をやや上回る見通しである。

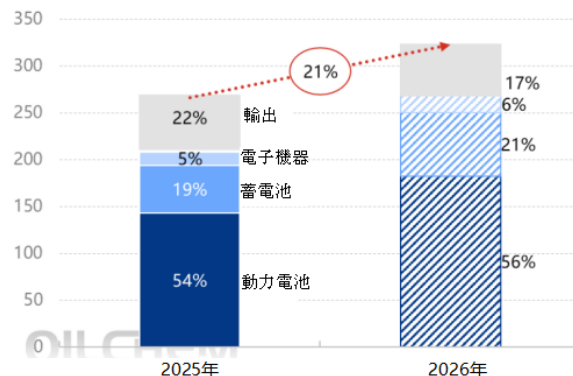


出典：隆衆資訊

図 1. 月別の負極材料需要量と供給量の見通し（2026 年 1~12 月）

具体的に月別の推移を見ると、需要低迷期にあたる 1~2 月は需給ギャップが拡大し在庫が増加する。3~8 月は需要の回復に伴い、その差は徐々に縮小するものの、供給過剰の傾向が続き、一定の在庫余剰が維持される見通しである。その後、需要期を迎える 9~11 月には、需要が供給を上回ること需給バランスが逆転すると予想される。

2026 年の負極材料の総消費量は、前年比 21%増の 323 万トンに達する見込みである。内訳としては、エネルギー貯蔵用蓄電池が前年比 33%増、動力電池が同 27%増と、いずれも高い成長率が予測される。



出典：隆衆資訊

図 2. 負極材料の消費構造の比較

CMI 株式会社

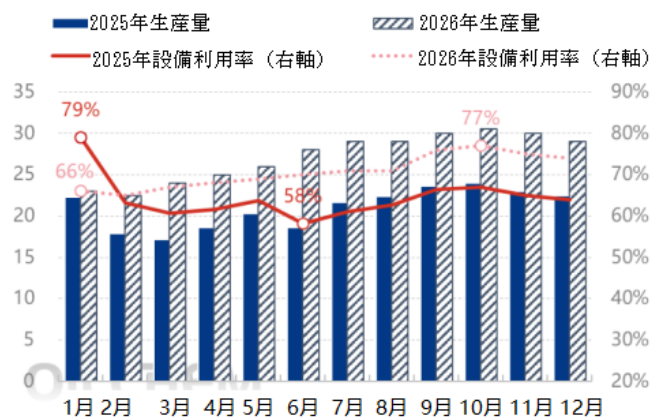
横浜市鶴見区鶴見中央2-12-30-105

TEL: 045-717-8575 FAX: 045-717~8683

2026 年の負極材料市場は高水準の成長率を維持し、総消費量は前年比 57 万トンの増加が予測される。

分野別では、新エネルギー車の普及拡大を背景に、動力電池分野で 39 万トンの増加が見込まれる。蓄電池分野においては、2025 年 9 月に発表された「新型エネルギー貯蔵システムの規模化建設特別行動方案（2025～2027 年）」に基づき、2027 年までの設備容量目標が 1.8 億 kW に設定された。これにより、2026 年は前年比 17 万トンの消費増が見込まれる。また、ドローン等の「低空経済」の急発展や政府のスマート端末支援策を背景に、民生用電子機器分野でも新たな応用先が創出され、市場拡大が一段と加速する見通しである。

2026 年における負極材料の月平均生産量は、前年比 28.6%増の 27 万トンとなる見通しである。また、月平均の設備稼働率は、前年から 7 ポイント上昇し、71%に達すると予測されている。



出典：隆衆資訊

図 3. 月別の負極材料生産量と設備稼働率の推移（2025 年 1 月～2026 年 12 月）

情報源：石墨盟